

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月17日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3870500406		
法人名	社会福祉法人 すいよう会		
事業所名	グループホーム 陽だまり		
所在地	新居浜市郷3丁目16番40号 (電話) 0897-46-5511		
管理者	平田 淳子		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年6月5日	評価確定日	平成20年7月17日

### 【情報提供票より】 (平成20年5月20日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成10年12月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤	3人, 非常勤 8人, 常勤換算 5.5人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		
(3)利用者の概要 (平成20年5月20日現在)			
利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	0名	要介護2	1名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 85歳	最低 70歳	最高 97歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員の異動はほとんどなく、利用者と馴染みの関係が作られている。職員のチームワークもよく、情報交換も密に行なっておられる。  
 ご家族からの要望があった時や利用者の状態変化時等には、その都度、介護計画を見直されている。また、「ご本人にとって困ったこと」が発生した場合にも、職員で話し合われている。  
 春には、利用者の提案で手作り弁当を持って、ご家族も一緒にお花見を楽しまれた。会場の下見や準備等も利用者と一緒にされている。散歩や買い物等、日常的にも外出を支援されている。

### 【質向上への取組状況】

#### 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)

・前回の評価結果を受けて、改善計画書を作成し、市に「陽だまり新聞」を届ける等、事業所のことをさらに知っていただけるよう取組みをすすめられた。

#### 今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)

・職員は評価項目の理解を深め、自己評価を全職員で行い、ケアにかかわる項目を意識しながら日々のケアに努めておられる。

#### 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)

・運営推進会議では、出席者と認知症の勉強を継続して行っておられ、参加者の理解が深まっている。自治会長の方より、地域の人達にも認知症についてのお話をしていただきたいとの提案があった。

#### 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)

・運営推進会議にはご家族も参加し、意見交換されている。お花見の際には、ご家族同士でも交流されており「居室の室温」「食事の形態」等、ご家族からの要望には職員で話し合い対応されている。

#### 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

・年2回行われる地域の清掃活動には、地元の職員と一緒に利用者も参加された。ごみ収集日には、職員、利用者で通り道のごみ拾いをされることもある。

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム陽だまり

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

平田 淳子

評価完了日

平成 20年 5月 20日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<p>(自己評価)</p> <p>「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という基本方針の基に、事業所独自の理念「利用者と共に、そして地域のパートナーとして」(そのころは、常に相手の立場に立って)また、ホームでの介護理念は「ゆったり笑顔でご本人に寄り添います」をつくりあげている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「利用者と共に、そして地域のパートナーとして」の法人理念を基に「ゆったりと笑顔でご本人に寄り添う」介護理念を作っておられる。</p>		今後、事業所の理念を広く知っていただけるよう、パンフレットにも載せることを計画されていた。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>理念である「ゆったり笑顔で寄り添う」ことによって、ご本人の気持ちになりきり、不安を取り除くことが出来ている。また、職員はそうすることによって、ご利用者が安心した生活を送られている成功事例を体験している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者、職員は理念を共有し、常に利用者の立場に立ってケアできるよう取り組んでおられる。</p>		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議には、地域住民やご家族の参加があり、折に触れホームの果たそうとしていること、果たしている役割を説明している。また、ホーム便りを配布している。地域のイベントなどに参加し、理解や協力を得て支えて頂いている。</p>		ホームのパンフレットは理念作成前に作った物で、今後はホームのパンフレットを通して理念を伝えていく工夫をしていきたい。新たにパンフレットを作成したいと考えているので、事業所へ改善提案として提出する考えでいる。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>(自己評価) ご利用者との散歩やゴミ出し、洗濯干しなど、農作業をされている方などに気楽に声をかけ挨拶をしたり、優しく声を掛けて貰ったりしている。また、旬の野菜や花を頂いたり一緒に収穫を楽しんだりしている。ご利用者と一緒に作った料理などもおすそわけをしている。散歩の途中立ち寄りたりされる方もおられる。</p>		
5	3	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>(自己評価) 自治会に加入している。また、地域に住んでいる職員が多いため、地元の人たちとの交流は自然な形で出来ている。盆踊り、春祭りや秋祭りなどに参加し、地域との交流を図っている。前年度は地域の清掃活動にもご利用者と共に参加出来た。今後もご利用者のタイミングを見ながら参加していきたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 年2回行われる地域の清掃活動には、地元の職員と一緒に利用者も参加された。ごみ収集日には、職員、利用者で通り道のごみ拾いをされることもある。</p>		<p>ホーム南側の空き地を地域の交流の場として、公園計画を取り組んでいきたいと考えている。ホームから地域へ、地域からホームへお互いに何か出来ることはないか常日頃考えている。「焦らず、出来ることからコツコツ」という精神で行う予定である。</p> <p>5年計画で事業所南側の空き地を公園に整備していく予定となっていた。さらに駐車場にベンチ等も置き、地域の人が気軽に立ち寄ることのできる縁側作りも、進めていきたいと考えておられた。</p>
6		<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 事業所の成果を地域に伝えることは、ご利用者やご家族のプライバシーがあり、思うように伝えることが出来なかった。しかし「認知症ケア」についての勉強会を開催することで、ご家族や地域の方々から大変良い評価を頂いている。</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。また職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直しが出来るチャンスとして取り組んでいる。今回は、前回と同じ評価内容になっている為、ご利用者の変化や職員のサービスの質の変化が良く分かる。</p> <p>(外部評価) 職員は評価項目の理解を深め、ケアにかかわる項目を意識しながら日々のケアに努めておられる。前回の評価結果を受けて、改善計画書を作成し、市に「陽だまり新聞」を届ける等、事業所のことをさらに知っていただけるよう取り組みをすすめられた。</p>		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議への積極的な参加への呼びかけ、メンバーの意見交換を行い、議事録にまとめている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。自己評価、外部評価は口頭での報告を行っている。「認知症ケア」の勉強会が大変良い評価を頂き、地域やご家族に認知症への理解を深めて頂いていることを実感している。		
			(外部評価) 運営推進会議では、出席者と認知症の勉強を継続して行っておられ、参加者の理解が深まっている。自治会長の方より、地域の人達にも認知症についてのお話をしていただきたいとの提案があった。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議以外にも、新居浜市内のGH管理者会議において市の担当者へ積極的に情報提供がなされている。また、新居浜市介護支援専門員連絡協議会が設立され、地域密着型サービス部会として活動していき、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいく。		
			(外部評価) 市のボランティアセンターより傾聴ボランティアの受け入れをされている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるように支援している	(自己評価) 研修会に出席し、理解している。また、今後必要な人には活用できるように支援したいと考えている。		
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会や研修会などで「高齢者虐待防止関連法」について学ぶ機会を持っている。また、新聞などの情報を職員間で共有し、理解浸透や遵守に向けた利組とを行っている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には個々の立場に立って、不安や疑問などを十分表せる働きかけを行っている。が、将来起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについては、契約時には行うことが出来ていない。ご利用者がホーム慣れ、ホーム側がご本人の予測されるリスクが予想出来るようになる、また入退院を繰り返されてからの重度化や看取りについての指針の説明になっている。		契約時に、環境が変わるとによって、ご利用者の起こりうるリスクなどを説明し、ご理解を頂いている。が、重度化や看取りについての対応、医療連携体制など、ホーム独自の対応マニュアルを十分説明し、納得を得た上で手続きを進めていくように配慮したい。
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 理念の「寄り添うケア」によって、ご利用者の心の変化を把握出来ている。介護相談員をしている職員が居るため、ご利用者の立場に立った意見を聞いて下さっている。また、日々の申し送りや職員会などで共有し、反映するよう努力している。		ご利用者の要望や意見を出してもらい機会として、月に1度、ご利用者による会合が出来ようきかけ作りをしたいと考えている。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) ご家族には月1回以上は来訪する機会作りをし、ご利用者の暮らしぶりやエピソード、心身の状況などきめ細かく報告されている。要望や意見を聞くようにしている。		今後は、毎月、担当スタッフより家族便りにて、現在の報告を行うようにし、ご家族間との信頼関係や協力関係を築いていく努力を行っていく。
			(外部評価) ご家族来訪時には、利用者の日頃の様子を伝えておられる。陽だまり新聞を年4回発行し、ご家族に事業所の取り組み、行事の様子等を写真入りで知らせておられる。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時の重要事項説明書やホーム内の受付には、苦情等申立先として「苦情解決責任者」「苦情受付担当者」「運営適正化委員会に申し立てることが出来ること」を明記している。運営推進会議の中で意見や不満など表せる機会作りを設け、反映させている。家族会発足への要望があれば協力したいと考えている。		
			(外部評価) 運営推進会議にはご家族も参加し、意見交換されている。お花見の際には、ご家族同士でも交流されており「居室の室温」「食事の形態」等、ご家族からの要望には職員で話し合い対応されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングやお昼の休憩時間などには意見や要望を聞くようにし、コミュニケーションを図るよう心がけている。また、職員の意見や提案を言いやすくするために、提案カードや改善提案書を用意し、聞く機会を設けて、反映させている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ご利用者の状況変化（入居時の環境の変化があった時、不穏時で見守りが必要な場合、健康状態に変化がある場合など）や職員の体調に合わせて柔軟な対応が出来ている。		24時間365日ご利用者を支えるローテーションを組んでいくために、業務や職員に支障のないように、今後も常勤職員採用を行っていく。
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動や離職はあまりない。ご利用者へのダメージを防ぐために、今後も配慮したいと考える。		
			(外部評価) 職員の異動はほとんどなく、利用者や馴染みの関係が作られている。職員のチームワークもよく、情報交換も密に行なっておられる。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 運営者は法人内外の研修を受ける機会の確保や向上心を持って働き研鑽していくことを進めている。法人外では愛媛県GH連絡協議会主催の研修参加、法人内では、今年度は認知症の勉強会、人材育成の勉強会、管理者の勉強会、事故防止の勉強会、感染症・食中毒予防の勉強会、介護技術勉強会などが行われる。		
			(外部評価) 職員は、法人で行われる勉強会や外部研修等に参加され、感想等をまとめ提出するようになっている。		管理者は、今後も利用者の生活の質の向上のためにも、職員研修に力を入れていきたいと話しておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	(自己評価)		
			<p>新居浜市で行われている管理者会議、介護支援専門員連絡協議会で交流する機会を持ち、相互の情報交換や勉強会などの活動を通じて、サービスの質の向上に努力している。</p>		今年度はホーム長もGHの相互研修に参加し、積極的にGH間の交流を進めていく考えである。
			(外部評価)		
			<p>市内の事業所同士で相互評価を行なっておられる。今年度はホーム長も参加の予定となっている。</p>		今後さらにネットワーク作りをすすめ、利用者、職員も他事業所と交流ができるような取り組みをすすめていきたいと考えておられた。
21		<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	(自己評価)		
			<p>運営者は管理者や職員のストレスを軽減するために月1回のミーティングに出席し、私たちの悩みや意見、要望に対して丁寧に答えて下さっている。また、管理者は場所を離れ昼食休憩を取ることによって気分転換を図り、また職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。</p>		
22		<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	(自己評価)		
			<p>運営者も頻繁に現場に来て下さり、ご利用者と過ごしたり、職員の業務や悩みを把握して下さっている。また、職員が向上心を持って働くことが出来るように人材育成や介護技術の勉強会を開き、自主的に参加出来る。健康診断の実施は年二回行われている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
23		<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	(自己評価)		
			<p>相談から利用に至るまでに、ホーム側はたくさんの情報が必要だが、ご本人が困っていることなどは本人自身から話されることはあまりない。ご家族からの情報が多い。入居されてからはご本人の気持ちを傾聴し職員間で話し合いが行われ、ご本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。</p>		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談するご家族の立場に立って、しっかりと話を聴き、困っていることや不安なことを受け止め、信頼関係をつくることに努めている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時に、ご本人やご家族の不安や求めていることを良く聴き、思いや状況などを確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要に応じて他のサービスにつなげるようにしている。場合によっては、地域包括支援センターや他のGHにつなげるなどの対応をしている。		今後は早急な対応が必要な相談者には、他の事業所のサービスにもつなげるような柔軟な対応をしていきたい。そのためには日ごろから他の事業所のサービスも知っていなければと思う。
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ご本人が安心できるよう、ご家族、管理者や職員は十分話し合いし、支援している。また、ご本人の不安な点を理解し、ご家族などと十分相談しながら工夫している。入居前にはご家族とご本人に見学してもらっている。希望があれば、入居前のお試し利用も可能となっている。 (外部評価) 入居間もない頃は、不安を訴える方もおられるが、職員はご本人に寄り添いながら、ご本人に安心していただけるよう取り組まれている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は個々のご利用者の自分らしさを大切にしながら、ご本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなど寄り添いながら知ることに努めている。また、お互い感謝の気持ちを表し、尊敬し、共に支えあう関係作りをしている。 (外部評価) 時に、利用者が職員にねぎらいの言葉をかけてくれたり、利用者同士も「大丈夫？」と声をかけ、いたわり合いながら生活されている様子がうかがえた。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者の様子や職員の思いを素直にご家族に伝えることにより、ご家族から協力を得られ、良い結果に結びつくケースがある。共に支えあう対等な関係を築いている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族やご本人の思いを受け止め、両者の思いが結びつくような働きかけを心掛けている。来訪時にはご本人とご家族の潤滑油になるよう心掛けている。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) ご本人が大切にされてきた友達の訪問時にはゆっくりお話ができるよう場作りをしている。また昼食を共にして貰ったりしている。ご本人の意向により昔懐かしい人や場所に行くという支援をしている。		
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ご利用者同士が支えあって暮らしていくことを理解し、ご利用者同士の良き関係作りをするために、職員が調整役になって支援している。また、ご利用者の調子の悪い時は職員は共有し、注意深く見守りを行い、円滑に生活出来るように働きかけている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 他の事業所へ移られた方にも、その後の様子を尋ね、ご利用者やご家族には関係を断ち切らないよう大切にしている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			ご利用者の言葉や日々の行動や表情などから真意を推し測る努力をしている。また、ご利用者個々から得た情報を蓄積できるよう個人観察記録に記入し、職員がどのように感じどのように対応したかを記録し、職員間で共有している。ご本人本位の思いを把握することに努力している。		
			(外部評価)		
			利用者からの訴えや行動、職員の気付きやエピソード、職員の対応等を記録し、職員間で共有されている。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			ご本人が安らかに、また有する力を発揮しながら自分らしく暮らしていくことを支援するために、個々の生活歴やライフスタイル、個性や価値観などを把握するために、回想などから発するご本人の言葉やご家族の聞き取りから全体像を読み取る努力をしている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解している。また出来る力、分かる力を暮らしの中から引き出し、押し進めることに努力している。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			ご本人がより良く暮らすための課題やケアのあり方について、看護師を含む職員で話し合いが行われ、介護計画を作成している。また、ミニカンファレンスが週1回程度行われ、ご本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方などについて話し合いが行われている。また、ご家族にも意見や要望、分からないことなどを尋ねて反映させ介護計画に取り組んでいる。		
			(外部評価)		
			利用者個々のアセスメントに基づき、職員の日頃の気づき等も採り入れ介護計画を作成し、ご家族に説明されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			介護計画の遂行状況、効果などを毎月評価するとともに、職員が記録するご利用者の状態変化や状況に伴い、職員会やミニカンファレンスにおいて、介護計画の見直しが行われている。また、ご本人やご家族の意向や要望の把握に努め、見直しが行われている。		
			(外部評価)		
			ご家族からの要望があった時や利用者の状態変化時等には、その都度、介護計画を見直されている。また、「ご本人にとって困ったこと」が発生した場合にも、職員で話し合われている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			個別にファイルを用意し、健康面チェック、食事摂取量、水分量、排泄、入浴などの心身の状況および、日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなどを記録している。また、それに伴い職員の対応や気付いたことなども記録し、職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			アソカ園（特養）、和が家（認知症専用サービス）、ひまわり（事業所内託児所）、すいよう作業所（知的障害授産施設）、芸術の作品展などが行われている喫茶店、郷の家（地域の方々とゆっくり交流出来る場所）など事業所の多機能性を活かした交流が行われ、共存が行われている。また、特別な外出の支援や外泊支援、送迎支援なども柔軟に行われている。		
			(外部評価)		
			ホーム長は、法人内事業所との交流や連携をすすめ、利用者の希望に柔軟に対応されている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ご利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、音楽、陶芸教室やお茶会などの参加、傾聴ボランティアの受け入れやボランティアの協力を呼びかけ、地域の人や場の力を借りた取り組みをしている。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ご本人の意向やご家族の要望により傾聴ボランティア支援が行われている。認知症専用サービスや事業所託児所などの自然な形での交流が行われている。ご利用者は気分転換や楽しく生活するパワーを頂いている。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今年度より介護支援専門員連絡協議会が発足し、地域包括支援センターと協働しながら、認知症の人を地域で支えるためのネットワークに努める。また運営推進会議においても市との連携が出来ており、情報交換や協力関係を築けている。		
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 重要事項説明書で説明を行い、ご本人、ご家族の同意のもと協力医療機関がかかりつけ医となっている。また、希望する医療機関による受診も出来るよう支援している。受診や通院は基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には代行する。 (外部評価) 利用者が希望する医療機関を受診できるよう支援されている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員は相談出来る。ご利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。またご家族に受診の理解をして頂けるよう努力している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ご利用者をよく知る看護師を確保し、一人ひとりの健康管理や医療的な支援を行っている。介護職員は気楽に相談が来ている。また、ご利用者も信頼関係が出来ており、慕っている。夜間の急変がほとんどないのは良い成果である。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時にはご本人の支援方法に関する情報などを医療機関に介護サマリーとして提出している。また、入院先に出向き、ご家族と情報交換を蜜にしながら、回復状況や退院支援に結び付けている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 事業所の看取り指針を明確にしている。  (外部評価) 看取りの指針に基づき、ご家族に説明されている。利用者の状態変化時等には、事業所で「できないこと」等について、主治医を交えてご家族と話し合いされている。スタッフ会で看取りの勉強会をされており、指針を共有されている。		事業所の看取り指針を元に、事業所の対応について職員間で勉強会を開く。また、ご本人、ご家族、かかりつけ医、看護師などと早期から話し合う機会を作り、関係者全体の方針の統一を図っていく。重度化に伴う意志確認書を作成する必要があるか検討する。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 47番と同じで、重度化や終末期に向けた支援をチームで取り組み、ご本人、ご家族が安心して納得して最期を迎えられるように、随時意志を確認しながら取り組んでいる。休日夜間の緊急時対応が明確になっており、不安なく勤務が出来るようになっている。		ターミナルケアに対する職員の理解と意欲はどうか、ご家族の協力はどうか、ご利用者が安心して終末期を過ごすことの出来る場であるかなどを考慮しながら、取り組んでいく。また、事業所の「出来ること、出来ないこと」を見極め、チームケアとして支援に取り組んでいく。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ご利用者の環境や暮らし方の変化によるダメージが最小となるよう、アセスメント、ケアプランや支援状況を手渡す。前年度はご家族の協力もありセンター方式で知りえた情報もご家族の確認の上、手渡した。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>					
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) ご利用者一人ひとりの尊厳と権利を守ることは、人間として大切なことであることを職員全員理解している。普段からの言葉掛けは利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に心掛けている。また、この点については職員間でお互い注意しあって意識向上を図っている。</p>		
			<p>(外部評価)</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>			<p>(自己評価) ご利用者とのコミュニケーションがとれず、職員は悩んでいたケースがあったが、職員は本人の思いや希望を寄り添いケアので関わりで、相互関係のコミュニケーションがとれるようになった成功事例がある。</p>		
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) 基本的な業務の流れは持っているが、一人ひとりの望んでいるペースやその日の体調に合わせての暮らしの支援をしている。また、朝寝坊する、ご家族や職員とゆっくり散歩、おしゃべりをなどの楽しみをご利用者ペースで生活を送っている。</p>		
			<p>(外部評価)</p>		
			<p>起床時間、食事時間等をご本人の体調等にも合わせておられる。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ご利用者の希望で職員がコミュニケーションを持ちながらカットしている。外出時にはきれいに化粧をされるご利用者もおられる。日中パジャマを着られ生活される方もおられたが、職員のさりげない声掛けにて、段々におしゃれに興味を持たれている方もいる。自分から身だしなみに気をつけることが出来ない方には起床時、特に職員は気をつけさがなく支援している。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理、盛り付け、片付けはご利用者の力を発揮出来る場だと職員は理解している。職員は利用者の出来ることを十分把握し、プライドを損ねないように支援している。また、食事介助の方や嚥下状態の悪い方がおられるので、ご利用者と共に食事は出来なくなり、ご利用者への見守りや楽しくなるような声掛けの支援を行っている。 (外部評価) 旬の食材を使用するよう心掛けておられる。利用者の中にはエプロンがけで調理をされている方や、配膳をされている方もうかがえた。		職員は弁当を持参して、ご利用者が食事している間はサポートに徹している。職員は気分転換も兼ね休憩時間に交代で食事をとることになった。しかし、ご利用者の不穏状態にある場合、食事も寄り添ってというアセスメントやカンファレンスになれば、ご利用者に合わせ、共に楽しい食事を行うことにしている。  1月より職員は、利用者とは別に交代で食事を摂るようにされている。ホーム長は、職員の食事の摂り方について再考することも検討されている。職員が利用者と一緒に食事を摂ることの意義について、話し合ってみる機会にされてはどうか。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、楽しめるよう支援している。たばこに関しては、評価の考え方の指針に反しているが、ご利用者の様子を見ながら、職員の関わり方で止めることが出来ないが、本人の思いを確かめながら、ご家族と相談しながら職員間でチームケアを行っているところである。		
56		気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。自宅では排便時不穏であり、ろうべんされていた方は排泄パターンを把握することによって、ろうべんはなくなり、不穏状態の理由も理解出来、職員は自然な対応が出来ている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			入浴拒否されていたご利用者は、一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、ゆったり関わることによって、今では入浴を楽しみにされている。ゆとりを持ち、楽しめるよう支援している。		
			(外部評価)		
			利用者の希望を聞きながら支援している。入浴剤等を使用されることもある。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			ご本人の生活パターンを重視している。夜間眠れないご利用者には他の利用者が安眠出来るよう気配りをしながら、添い寝したり、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりを心がけている。また、生活リズムの記録をもとに医師と相談して睡眠出来るよう調整に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			職員は一人ひとりを寄り添うケアをしながら、ご本人をよく理解している。ご本人の得意分野で力を発揮してもらっている。例えば、食事作り、陶芸教室への参加、園児さんとの交流、洗濯たたみ、食器洗い、他の利用者のお世話など、趣味や力を活かした役割や楽しみごとに触れる姿を通して、職員は認知症ケアの醍醐味を味わっている。		
			(外部評価)		
			年齢の若い職員の方が調理する際には、利用者が料理を教えて下さり、積極的に手伝って下さっている。行事等の計画は、利用者の意見を聞き取り、楽しみとなるよう支援されている。午前中、般若心経をあげるのが日課の方もおられる。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			職員はご本人がお金を持つことの大切さを理解している。が今のところ事務所で預かっている。ご本人の希望や力に応じて、その都度使えるようにはなっていない。ご家族には1ヶ月に1度会計報告を行っている。		お金があることでご本人の安心感や満足感、意欲がわくのならば、管理方法を取り決めて支援していく方法があることをご家族にも理解して頂ければ話し合いを持ちたいと考えている。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			お一人ひとりの希望にそって、当たり前に出出できるよう支援している。特に門扉が閉まっているので、ご利用者の外出支援には気をつけてその日の希望にそっている。日常的な散歩、地域の交流場所（郷の家）、園児との行き来。		
			(外部評価)		
			春には、利用者の提案で手作り弁当を持って、ご家族も一緒にお花見を楽しまれた。会場の下見や準備等も利用者と一緒にされている。散歩や買い物等、日常的にも外出を支援されている。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			個別に法事、親戚のお祝い事、ふるさと訪問、墓参りなど特別な楽しみなどへの外出支援を行っている。また、職員の勤務調整を行ったり、ご家族と相談し協力を得ながら実現している。		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			希望に応じ、ご家族などに電話しやすいように雰囲気作りをしている。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			馴染みの友人が気楽に訪問して下さり、昼食を共にして、帰られる。ご利用者の皆さんも気を使うことなく、自然な形である。そのことで、ご本人は生きる力を貰っていることを職員全員が理解している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束をしないケアに取り組んでいる。ミーティングやカンファレンス、日々の申し送りなどで振り返り、日々見直しをしている。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) ご利用者が外に出たくなる場面や理由、行き先などを理解することを大切に、外出支援を行っている。出て行く気配を職員が見落とさず見守り、連携プレーをしている。また、外部者が出入りしやすく、地域に根ざされたグループホームとしてこれからも工夫していく。 (外部評価) ホームは線路沿いにあり、ご家族の要望もあり安全のため、現在は、門扉に鍵をかけられている。職員は、利用者の外出したい気分を察知し、付き添われている。		南側の空き地を公園化し、地域との交流が自然な形で出来るよう工夫をしていく。  ホーム長は、地域の方が訪問しやすいよう門扉を開放していきたいと考えておられる。利用者の安全と安心を守り、自由な暮らしを支援していくためにも職員、ご家族、地域の方達とも話し合い、取組みをすすめていかれてほしい。
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は昼夜共に中央のリビングで利用者の様子が察知できやすい場所に居ようしている。台所の死角になるところには、鏡で全体を見渡せるように工夫している。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。例えば、杖の保管、異食行為のある方への配慮。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットの記録から危険への気付きを収集し、職員間で話し合い、一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険を検討している。また、事業所で行われている事故防止委員会へ出席し、困難事例などの勉強を積み重ね、今後の予防対策について検討している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) ご利用者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てず確実かつ適切な行動がとれるよう、定期的に訓練を行っている。また、夜間時の緊急時対応マニュアルを周知徹底していく。		
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難路の整理整頓、消火器の使い方や昼夜の避難訓練を年2回以上行っている。地域の協力体制については、自動火災通報装置の登録メンバーになって頂いており協力体制にある。また、特養との連携も取れている。		これからも地域住民との連携を密にしていく。避難訓練の具体化を進め、ホーム独自のマニュアルを作成していく。
			(外部評価) いざという時には、法人内と連携を図ることとなっている。災害時等には地域の方達も駆けつけて下さるようになっている。事業所で避難訓練を行っておられる。		今後、利用者も参加し、避難訓練を行いたいと考えておられる。すべての利用者が安全に避難できるよう、話し合いや訓練を重ねていかれることが期待される。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 力の発揮や抑制感のない暮らしは認知症であるご利用者にとって、大切なことだと職員は理解している。しかし、夜間は勤務者が一人となるため、ご利用者の起こり得るリスクについて、ご家族に説明をし、対応策などを話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 一人ひとりの体調の変化や表情の変化などの異変発見に努め、気付いたことがあれば、すぐに管理者、看護師と連携し、医療受診につなげている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師と共に働いているので、その都度尋ねることが出来る環境である。また、薬剤の早見シートを用意している。服薬時には名前を確認しながら、手渡し、きちんと服用できているか確認している。心身上の変化や課題がみられた場合はご家族や担当医に伝え、本人の状態の経過や変化などに関する日常の記録を医療者に提供している。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 看護師や職員により、毎日自然排便が出来るよう、食事(水分量も含む)、排泄、活動状態などの見直しをしている。また、それでも三日以上排便がない場合は、下剤を使用しているが、一人ひとりに状態に合わせた、使用量と頻度になっている。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり介助を行ったりしている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 法人内の栄養士が献立を立てている。食事、水分の摂取量は記録して、職員が把握している。血糖値を測定している方や嚥下障害のある方、視力障害がある方、自分から食べることが出来ない方、好き嫌いのある方などには食事、水分量、栄養バランスなどの支援をすると共に食が進むよう工夫をしている。 (外部評価) 法人の栄養士が献立を立てておられる。水分を取りにくい方には、甘味を加える等、工夫されている。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 事業所として具体的な予防策、早期発見・早期対応策が必要だということを職員全員が理解し、繰り返し学んでいる。その都度の手洗い、うがいを励行している。タオルからペーパータオルを使用し、整理整頓清掃にも気をつけている。またご利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。感染予防の為に食堂には車椅子専用の手洗い場、玄関には来客用の手洗い場を設置する。		事業所として、感染症、食中毒の委員会があり、勉強会を行っている。また、ホーム独自のマニュアルとして見直しをしている。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食中毒予防のために、台所・調理用具などの衛生管理を行っている。新鮮で安全な食材の使用と管理が出来ている。魚は当日配達、肉や野菜は前日購入し冷蔵庫に管理している。冷蔵庫や冷凍庫の食材は週1回整理し、食材が古くならないよう、無駄なく使用できるよう工夫している。		上記と同じで、事業所として月1回勉強会が行われている。職員誰でも同じように対応出来るようにホーム独自のマニュアルを作成していこうと考えている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 立地環境のマイナス面をプラスになるよう、また訪問者が安心して出入り出来るよう話し合いが行われている。笑顔の対応を心がけ、気がついた利用者に対応している姿もよく見受けられる。散歩している地域の方とご利用者が塀越しで話している姿もよく見受けられる。		南側の空き地を公園化し、地域とホームの交流の場になればとアイデアが出ている。今年は色々な種類の桜の木が理事長のご好意で植えられた。皆の力で公園が出来、ますますの交流が出来ればと思う。
81	29	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 車椅子利用のご利用者が増えたり、自分の指定の場所と決めているご利用者がいたり、食堂のスペースが狭くなり、ご利用者にとって居心地良く過ごせるためにはどうすれば良いかと常に考えながら、工夫している。		これからも、認知症の方にとって心地よい環境作りをしていきたい。改善提案をしていきたいと考えている。
			(外部評価) 外から帰った際には、玄関で手洗いができるよう洗面台を設けておられた。居間の洗面台は、車椅子の方が使いやすいよう改修されていた。		また、利用者が雨の日にも洗濯物を干せるよう、洗濯干し場の改善も計画されている。
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) それぞれの部屋に訪問したり、リビングや玄関の長椅子、テラスの椅子、玄関外のベンチなどを利用して、おしゃべりやお茶を楽しんでいる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			集団生活で落ち着かず、不安や怒りが出ても、居室に戻り、落ち着かれているご利用者を見ている。		
			(外部評価)		
			ご本人の希望に応じ、畳も敷けるようになっている。居室で横になって過ごすことの多い方は、ご家族と相談され、テレビを持ち込まれていた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			空気の入替えは、清掃時の一日2回行われている。居室やトイレには換気扇があり、ご利用者の健康状態によっては常時、温度計、湿度計を見ながらの調節を行っている。空気の入替えでは風が入ると嫌がるご利用者がおられ、職員同士連携を取りながら、気配りをしながら、タイミングよく換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			車椅子使用のご利用者にとって、廊下幅は広く、手摺りがあり、移動しやすい環境となっている。しかし、トイレ洗面所は間口が狭く、自走しにくいスロープがある。自立支援しにくい環境である。		法人にはご利用者が洗濯できやすく、干せやすい環境作りを提案させてもらっている。これからも、ご利用者の安全、自立、快適な生活が出来るよう工夫していく。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			職員は一人ひとりの出来ること、わかることを見極め支援している。混乱や失敗を防ぐために寄り添うケアをしている。		これからも、ご利用者が混乱を招くような環境の原因を追究し、改善提案をしていきたいと考えている。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			玄関先にベンチ、テラスにもくつろぐ事の出来るテーブルや椅子を用意している。建物の外周は散歩コースとして利用している。また、身体機能の低下に伴い、外出が困難になったご利用者にも、リビングから四季折々の花が楽しめるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	寄り添うケアをすることで、ご利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。また個人観察記録には日々のご利用者の訴え、行動、気付き、エピソード、スタッフによるどのように感じたか、対応したかを記録することによって、本人さんの思いや願い、スタッフの感じ方や対応の仕方が分かり、スタッフは勉強になっている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	業務の中で出来るだけご利用者一人ひとりと寄り添いながらを心がけている。また一緒に料理や掃除や散歩をしながら、ゆったりと過ごすことに心がけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりの暮らし方の希望を把握している。ご利用者の日課はあまりなく、一人ひとりのペースで自由にのんびりとをモットーに支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ちょっとした声掛け、一緒に歌を唄う、話に耳を傾ける、握手する、肩をさすだけでもご利用者の顔の表情が明るくなり、生き生きとした表情になる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご利用者を戸外の行きたいところへお連れしたいが、希望とおりには出来ていない。ホーム周りを散歩するなどのちょっとしたことを支援したいと思っているが、余裕がないのが現状。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	看護師により健康管理チェックが行われ、職員への助言、異常の早期発見、医療機関への連絡など迅速な対応などにより安心した生活が送れている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご利用者のその時々状況や要望に応じて柔軟な支援をしていこうという姿勢で支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	職員はご家族が困っていること、不安なこと、求めていることを良く聴いている。信頼関係に努力している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	ご利用者のお友達が定期的に訪ねて来たり、馴染みのオカリナ演奏の方が訪ねて来たり、事業所内託児所の園児が訪ねて来たり、地域の交流の場であるお茶会に出掛けたり、陶芸教室へ参加したりして馴染みの方と交流をしている。

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	①大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	認知症ケアの勉強会を行うことによって、認知症の理解者が増えていることを実感している。また地域やご家族からもっと広い範囲で勉強会が出来ればよいという声がある。よって、理解者や後援者が増えてきていると実感している。
98	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生き活きと働けるように、休憩時間には、職員の声に耳を傾けている。それによって、業務の改善する点やご利用者の変化などを知ることが出来ている。また感謝を笑顔や言葉で表現している。
99	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	満足度はご利用者の表情に表れてくると思う。その時々にはご家族からや事業所からも応援をして頂いている。
100	①ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族はサービスを満足して下さっていると思っている。また、前向きな要望を聞く場合があるが、ご家族も関心を示して下さい、ありがたいと思う。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

毎年事業所計画を立て、目標や課題解決に向かって具体的に取り組んでいる。また「私たちはご利用者が笑顔で過せるように、私たち職員も楽しく働けるように」を目標にしています。ご利用者が安全で暮らしやすいホームとして環境面を見直すことと、職員が認知症ケアを理解するために、事業所内外の研修に参加する予定です。若い職員を育てる為に勉強会の参加。ホーム長も他のグループホームを知り、お互いの情報交換と交流をするために管理者交流会に出席、また今年は相互研修を受ける予定です。自己評価に記入しているとおり、南側空き地を公園化し、地域の方がホームへ、またホームから地域へと、自然な形で交流が出来ればと思っております。